

## こじゅんと太ったコウヨウザン

### チャンチンモドキも

近年、早生樹については各広報誌等により頻繁に目にする機会が増えてきました。

本誌でも、針葉樹のコウヨウザン（ヒノキ科）、広葉樹ではセンタン（センタン科）やチャンチンモドキ（ウルシ科）等の試験研究や施業技術の開発等を紹介しています。

このような中、平成27年秋に、大分県から頂いたコウヨウザンとチャンチンモドキを局駐車場周辺に植えています。

5年近く経過した状況は、写真（8月末撮影）のとおりで、目を見張る成長です。

- ・コウヨウザン（右） 樹高3.1m（1.3m）、胸高直径2.8cm（1.0cm）
- ・チャンチンモドキ（左） 樹高6.8m（3.6m）（昨年同時期の数値）



四国局管内において、コウヨウザン・センダンの試験地等にける取組を進めて、今後とも署等と連携して早生樹を含めた造林技術の確立に向けて取り組みます。

## 誌上 森林環境教育

高い木の頂上まで水が届くのは どうして。

樹木は、地球上で最も大きくて一番長寿な生き物。アメリカ合衆国、カルフォルニア州のセコイア公園には樹高が100mを越える巨木がある。

水がこのような高い木の樹冠部まで運ばれるメカニズムは未だ完全には解明されていないが、最近凝集力ー張力説が有力視されている。

樹木の中の水の動きは真空ポンプで引っ張り上げるようなものでなく、水が持っている張力で自からを引っ張り上げている。樹木の中の水は、針葉樹は仮導管、広葉樹は道管というミクロな通水管の中を根から葉まで途切れることなく長くつながっている。このミクロな水管は、水それ自身の中に働く凝集力と、水と通水組織の細胞壁との間に働く張力（粘着力）によって維持されている。

水を引っ張り上げる直接の原動力は、葉からの水分の蒸散力、さらに、根や樹冠内の浸透圧の変化が補助的な働きをして、水が高い木のとっぺんまで押し上げられている。

もっと知りたい森と木の話  
(北海道林業改良普及協会)

### 編集後記

「まっこと 暑かった 今年の夏」  
暑さに対応した身体を少しずつ 初秋の身体へ。  
体調に気配りして備える・・・の秋へ。



「実が開花し 熟すまで」って

ドングリのなる木でコナラ（写真上）とクヌギ（写真下）は両者ともコナラ亜属。



コナラの実が開花した年の秋に熟すから1年もの、クヌギは翌年までかかるので2年もの。

一般に、広葉樹の実は1年ものが大多数だが、ドングリの仲間には2年ものが多く見られる。針葉樹の実（球果）にも1年ものと2年ものが。スギとヒノキは1年もの。クロマツとアカマツは2年もの。

ドングリの木では、開花して雌花が花粉を受けるところまではスムーズに進むが、その年のうちには卵細胞との受精には至らず、翌年の春にやっと受精し、それから実が大きくなる。

長い人生、より充実するためには1年くらい余計にかけても良かった、と思うことって後から振り返るとあるものですよ。

森にまなぶ101のヒント  
(日本林業技術協会)